

1998年出土の木簡



(吉野山)

6 遺跡の年代  
飛鳥時代～奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

川原寺跡は飛鳥川左岸の低位段丘上に位置している。今回の調査は川原寺の南西100mの地点で、個人住宅の建替えに伴うものである。調査の結果、幅一・二m深さ五五cmの東西溝を検出した。溝内の堆積土は大きく二層に分かれ、木簡は上層で検出した。溝内からは、他に須恵器・土師器・瓦などが出土している。

今回の調査地は川原寺と橘寺の間を東西に走る道路の

## 奈良・川原寺跡

推定線上にあたり、調査地西方の川原下ノ茶屋遺跡や橘寺北門前で検出した道路遺構との位置関係から、検出した溝は東西道路の北側溝であることがわかる。

### 8 木簡の釈文・内容

1 所在地 奈良県高市郡明日香村大字川原字カド田  
2 調査期間 一九九八年(平10)六月  
3 発掘機関 明日香村教育委員会

4 調査担当者 西光慎治  
5 遺跡の種類 道路跡  
6 遺跡の年代 飛鳥時代～奈良時代

- (1) 天平十年歳次戊寅  
(2) □上□  
(3) 上

(112)×(9)×4 081  
(66)×(20)×4 081  
(76)×(39)×3 081

(1)は紀年銘のある木簡である。「戊寅」まで記すものは荷札ではあまり例がなく、文書木簡の一部である可能性がある。(2)(3)は「上」の字が記されているが内容については不明である。

なお、木簡の釈讀にあたっては、奈良国立文化財研究所の寺崎保広氏による教示を得た。

(西光慎治)



(1)